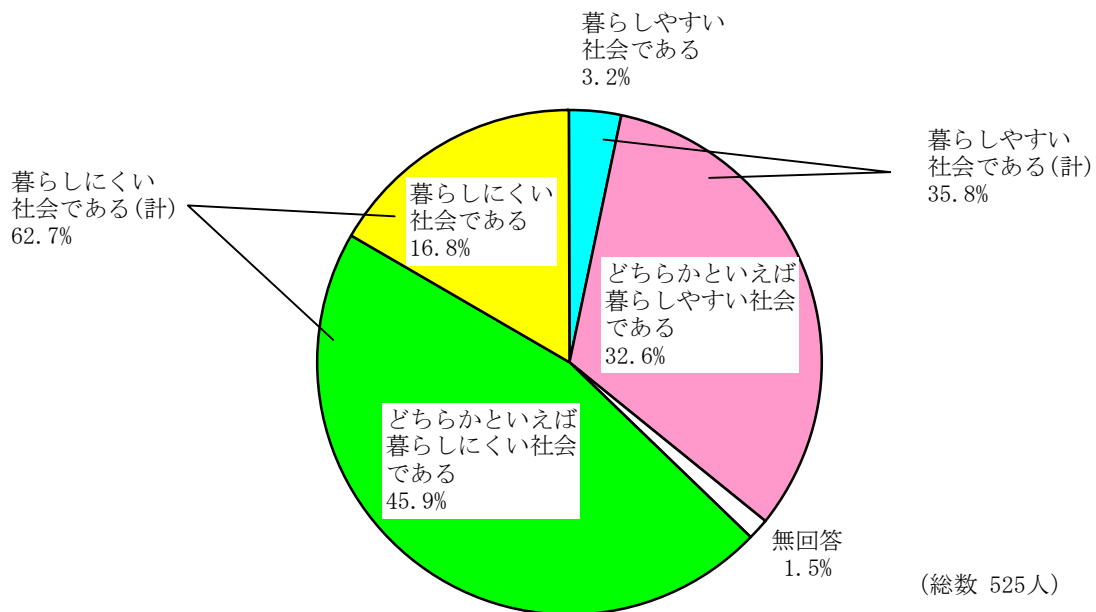


第5章 高齢者の人権について

1. 高齢者にとっての現在の社会

問 12. 高齢者が暮らしていく上で、現在の社会をどのように感じていますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけお答えください。(記入は1つ)

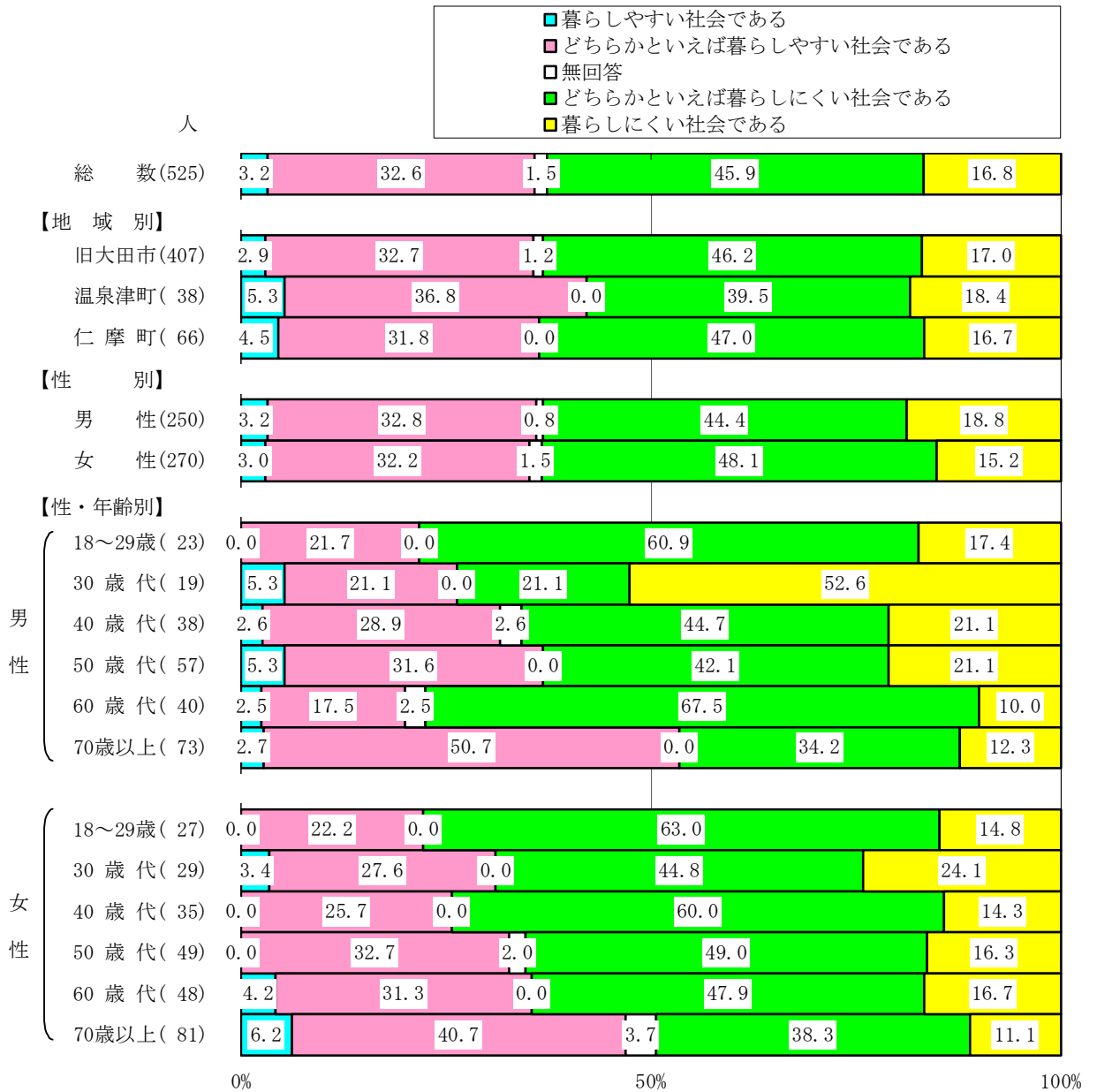


■ 「暮らしにくい社会である」が約6割

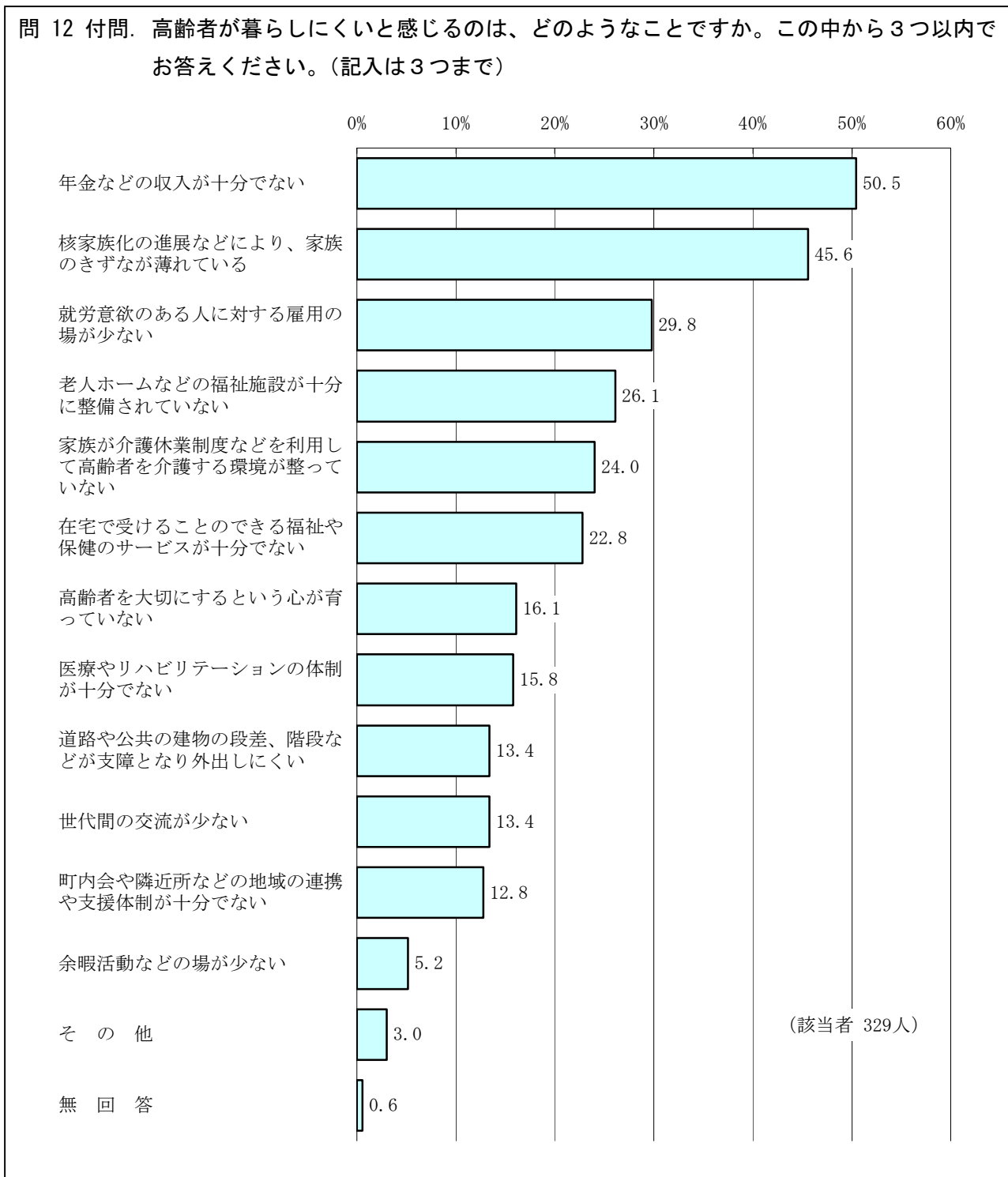
高齢者が暮らしていく上で、現在の社会をどのように感じるかを聞いたところ、『暮らしやすい社会である(計)』(「暮らしやすい社会である」3.2%+「どちらかといえば暮らしやすい社会である」(32.6%)が35.8%、『暮らしにくい社会である(計)』(「暮らしにくい社会である」16.8%+「どちらかといえば暮らしにくい社会である」45.9%)が62.7%となっている。

性別では差がないが、性・年齢別では『暮らしやすい社会である(計)』は男女とも70歳以上で極端に多くなっているが、一方、男性の60歳代では『暮らしやすい社会である(計)』が最も少なくなっており、差がある。また、『暮らしやすい社会である(計)』は、29歳以下では男女とも少なく約2割となっている。

図 5-1 高齢者にとっての現在の社会



2. 高齢者が暮らしにくいと感じる理由



■ 「年金などの収入が十分でない」、「核家族化の進展などにより、家族のきずなが薄れている」が約5割

問 12 で「暮らしにくい社会である」または、「どちらかといえば暮らしにくい社会である」と答えた人に、「暮らしにくいと感じるのは、どのようなことですか」と聞いたところ、「年金などの収入が十分でない」が 50.5% (県 53.6%) と最も多く、次いで、「核家族化の進展などにより、家族のきずなが薄れている」が 45.6% (県 49.6%)、「就労意欲のある人に対する雇用の場が少ない」が 29.8% (県 35.1%) となっている。

59歳以下と60歳以上の回答の比較をしてみると、60歳以上では「核家族化の進展などにより、家族のきずなが薄れている」、「高齢者を大切にするという心が育っていない」、「世代間の交流が少ない」、「町内会や隣近所などの地域の連携や支援体制が十分でない」が多く、59歳以下では「就労意欲のある人に対する雇用の場が少ない」が多い。

地域別にみると、他地域に比べ「老人ホームなどの福祉施設が十分に整備されていない」は温泉津町（40.9%）で多く、「就労意欲のある人に対する雇用の場が少ない」は旧大田市（31.9%）で多くなっている。

性別でみると、「在宅で受けることのできる福祉や保健のサービスが十分でない」が男性（16.8%）より女性（28.7%）が多くなっており、性差がある。

また、性・年齢別でみると、「年金などの収入が十分でない」は、男性50歳代、女性の60歳代で6割を超え多くなっている。

図5-2 高齢者が暮らしにくいと感じる理由

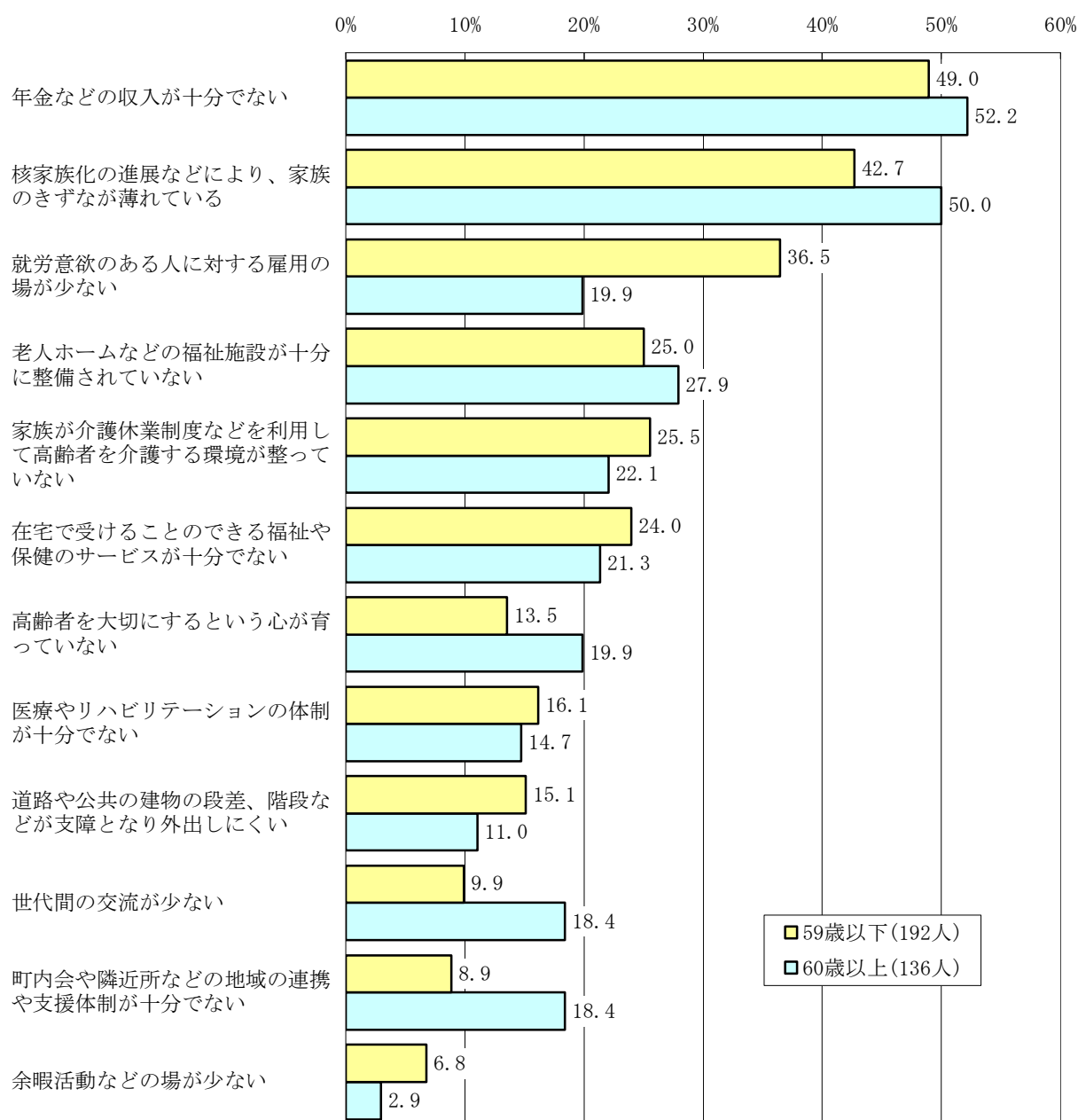
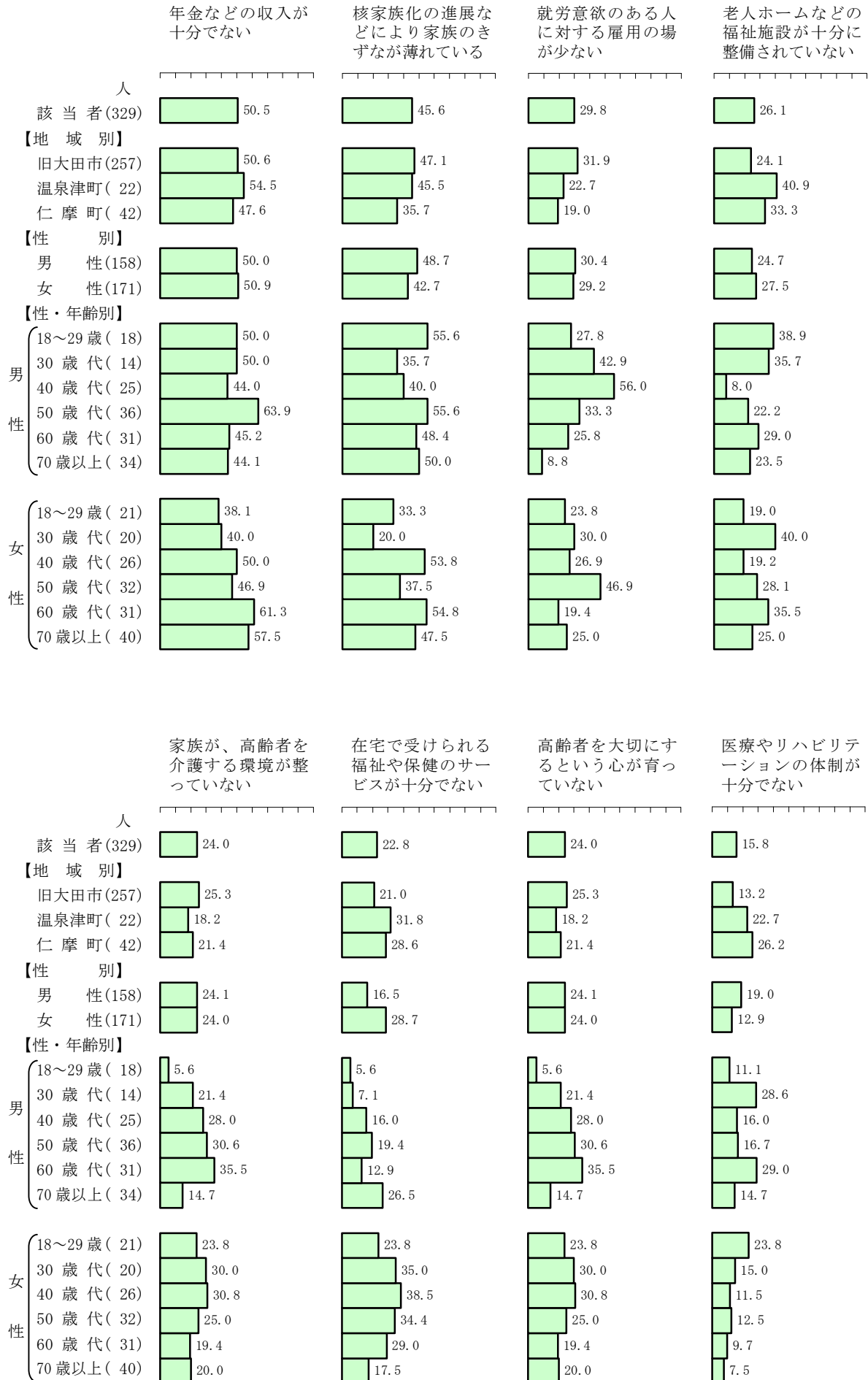
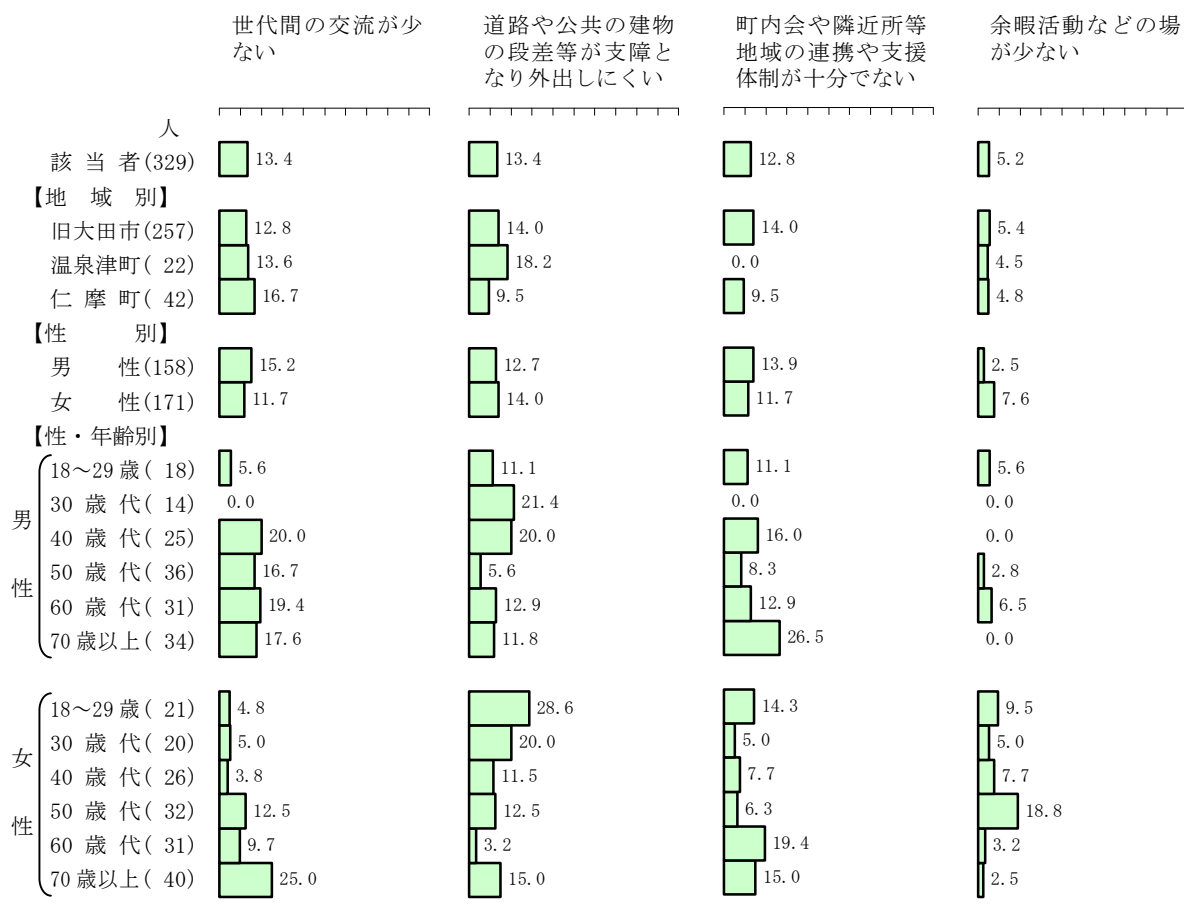


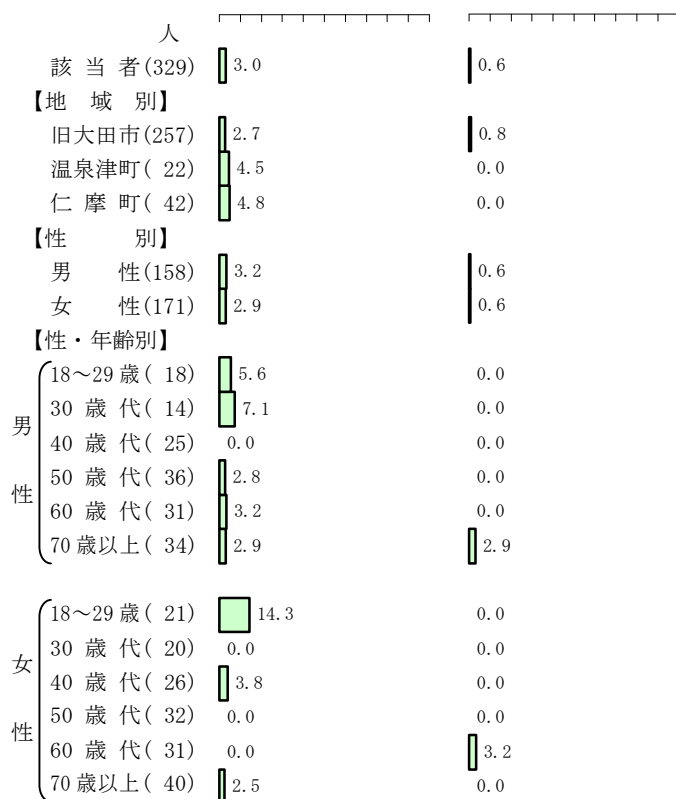
図5-3 高齢者が暮らしにくいと感じる理由





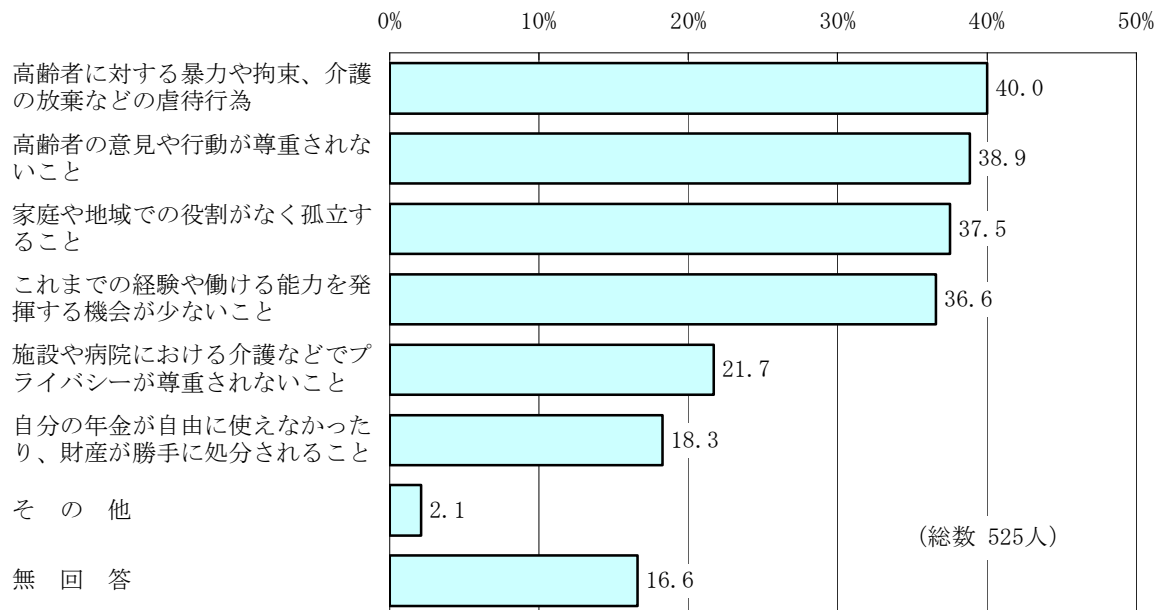
その他

無回答



3. 高齢者に関する人権上の問題

問 13. 高齢者に関する事柄で、特に人権上問題があると思うのはどんなことですか。この中から3つ以内でお答えください。(記入は3つまで)



■ 「高齢者に対する暴力や拘束、介護の放棄などの虐待行為」が4割

高齢者の事柄で、人権上問題があると思うこととしては、「高齢者に対する暴力や拘束、介護の放棄などの虐待行為」が 40.0%、次いで「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」が 38.9%（県 29.5%）以下「家庭や地域での役割がなく孤立すること」が 37.5%（県 28.5%）「これまでの経験や働ける能力を發揮する機会が少ないこと」が 36.6%（県 36.2%）となっている。

59 歳以下と 60 歳以上の回答の比較をしてみると、60 歳以上では「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」が多く、59 歳以下では「高齢者に対する暴力や拘束、介護の放棄などの虐待行為」が 45.5%と特に多くなっている。

地域別にみると、温泉津町で「高齢者に対する暴力や拘束、介護の放棄などの虐待行為」が 50.0%と多くなっている。

性別では、ほとんど差異はみられないが「施設や病院における介護などでプライバシーが尊重されないこと」は女性にやや多い。

性・年齢別にみると、「高齢者に対する暴力や拘束、介護の放棄などの虐待行為」は男性の 29 歳以下、女性の 30 歳代で約 6 割と多くなっている。

図 5-4 高齢者に関する人権上の問題

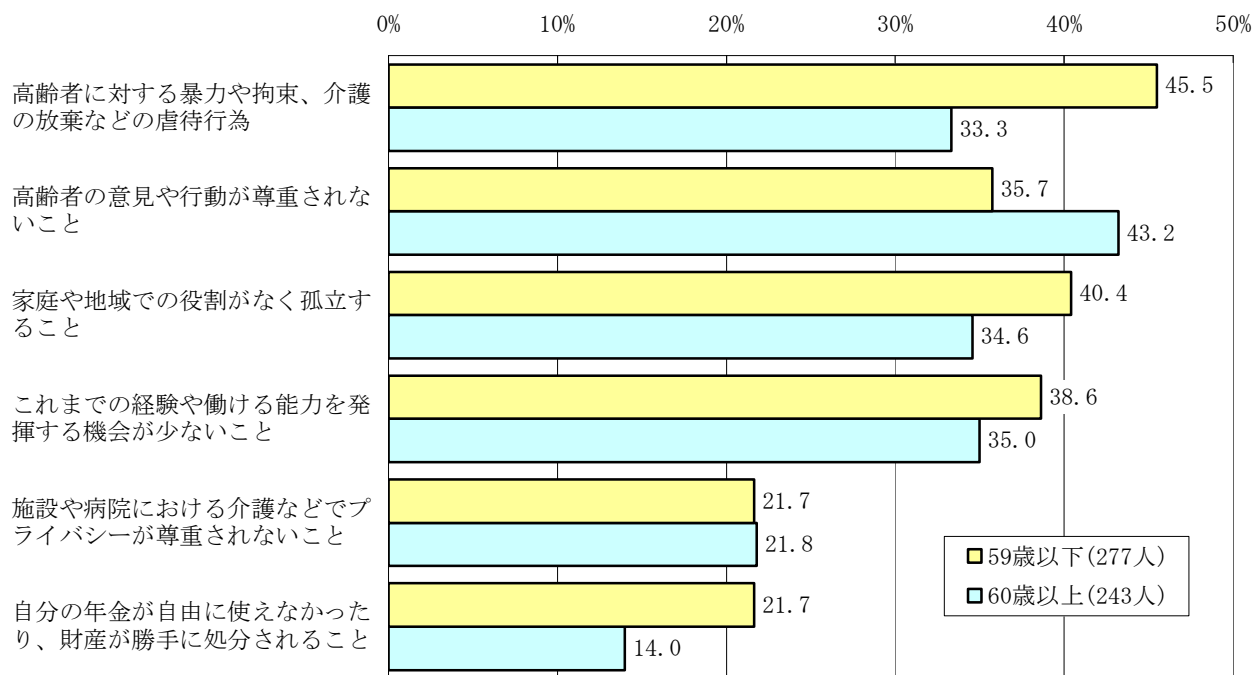
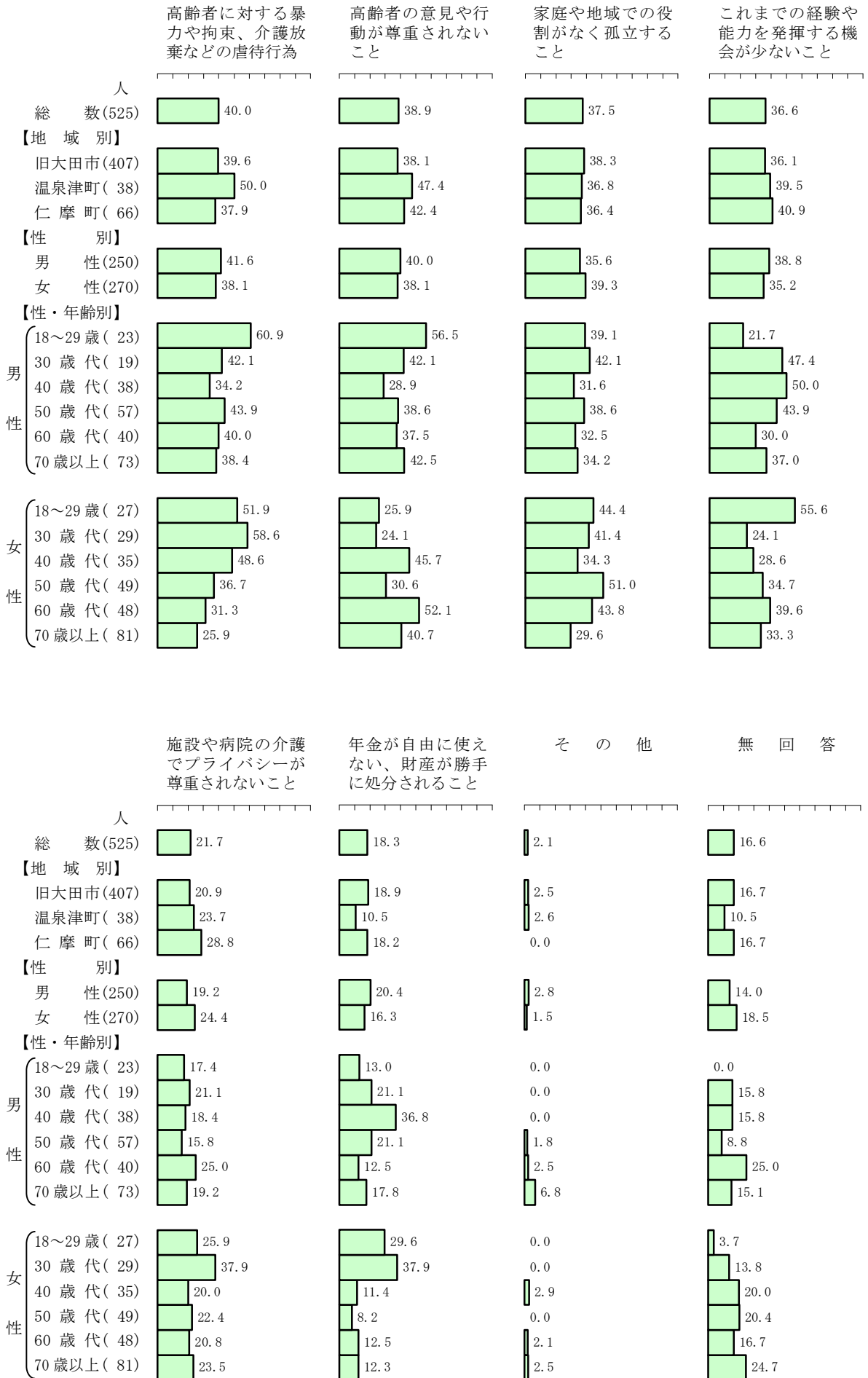
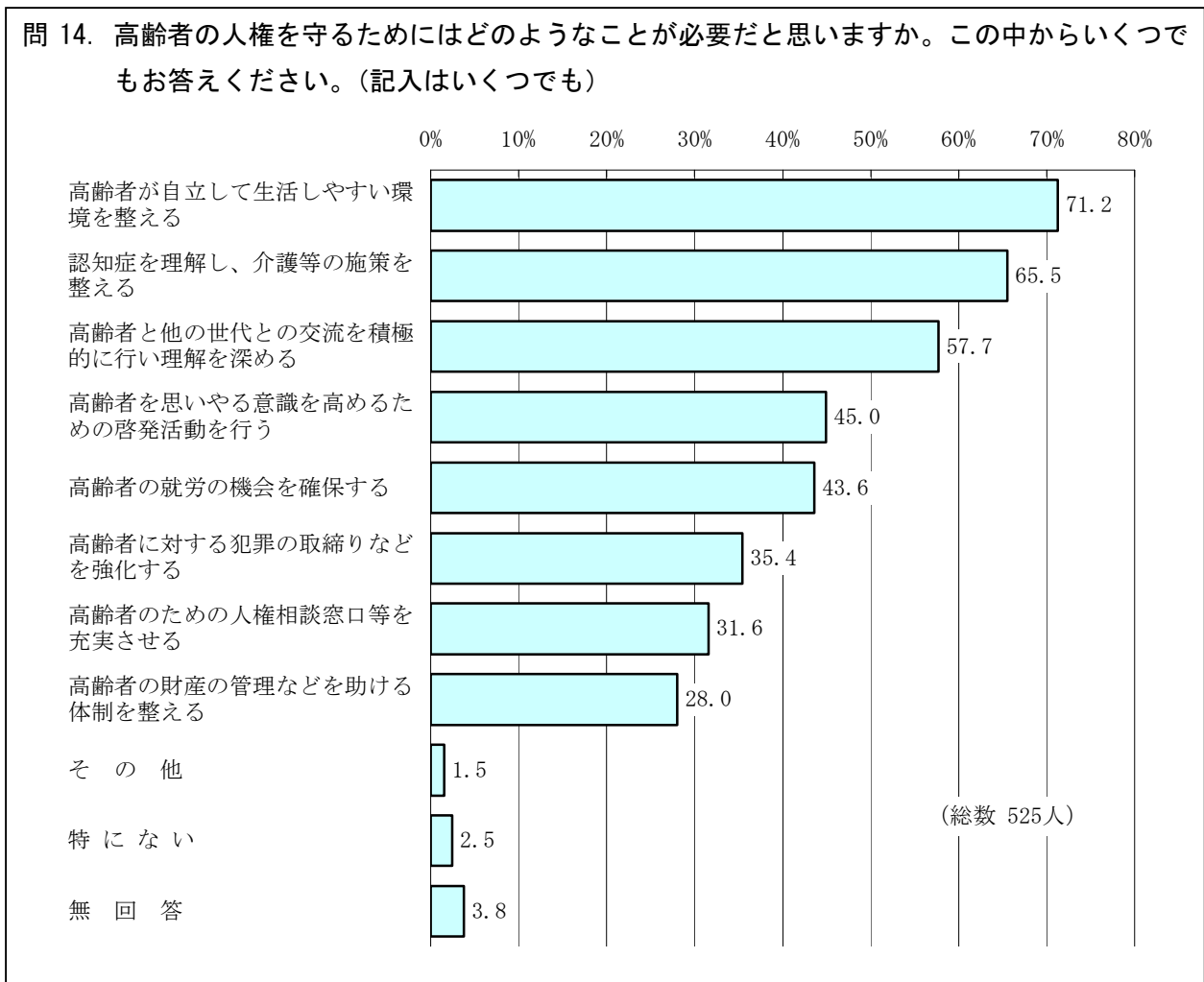


図 5-5 高齢者に関する人権上の問題



4. 高齢者の人権を守るために必要なこと



■ 「高齢者が自立して生活しやすい環境を整える」が7割

高齢者の人権を守るために必要なこととしては、「高齢者が自立して生活しやすい環境を整える」が71.2% (県 64.4%)、次いで、「認知症を理解し、介護等の施策を整える」が65.5%となっている。以下「高齢者和其他の世代との交流を積極的に行い理解を深める」が57.7% (県 52.5%)、「高齢者を思いやる意識を高めるための啓発活動を行う」が45.0% (県 32.0%)、「高齢者の就労の機会を確保する」43.6% (県 34.8%)の順となっている。

59歳以下と60歳以上の回答の比較をしてみると、「高齢者に対する犯罪の取締りなどを強化する」では、60歳以上(42.4%)で多いのに対し、59歳以下(29.2%)は少なく差があり、「高齢者の就労の機会を確保する」では59歳以下(50.9%)で多いのに対し、60歳以下(35.4%)は少なく差が大きい。

地域別にみると全ての地域で、「高齢者が自立して生活しやすい環境を整える」が7割を超えている。また、「認知症を理解し、介護等の施策を整える」は仁摩町では72.7%であるが、温泉津町では50.0%と少なく差がある。

性別では女性で、「高齢者が自立して生活しやすい環境を整える」と「認知症を理解し、介護等の施策を整える」が7割を超え多くなっている。

高齢者の人権に関する調査結果をみると、全体の約6割が「暮らしにくい社会である」と高齢者の

現状を捉えていることから、介護・就労・社会参加等の支援の充実や、相談体制・地域ケア体制の整備等の推進に向け努めなければならない。また、平成18年に「高齢者虐待防止法」が施行されたことに伴い、高齢者に関する人権問題についての関心が高まっていることから、虐待の防止、虐待を受けた高齢者の保護等の対策を行うため、関係機関と民間団体等との連携の強化に努めなければならない。

図5-6 高齢者の人権を守るために必要なこと

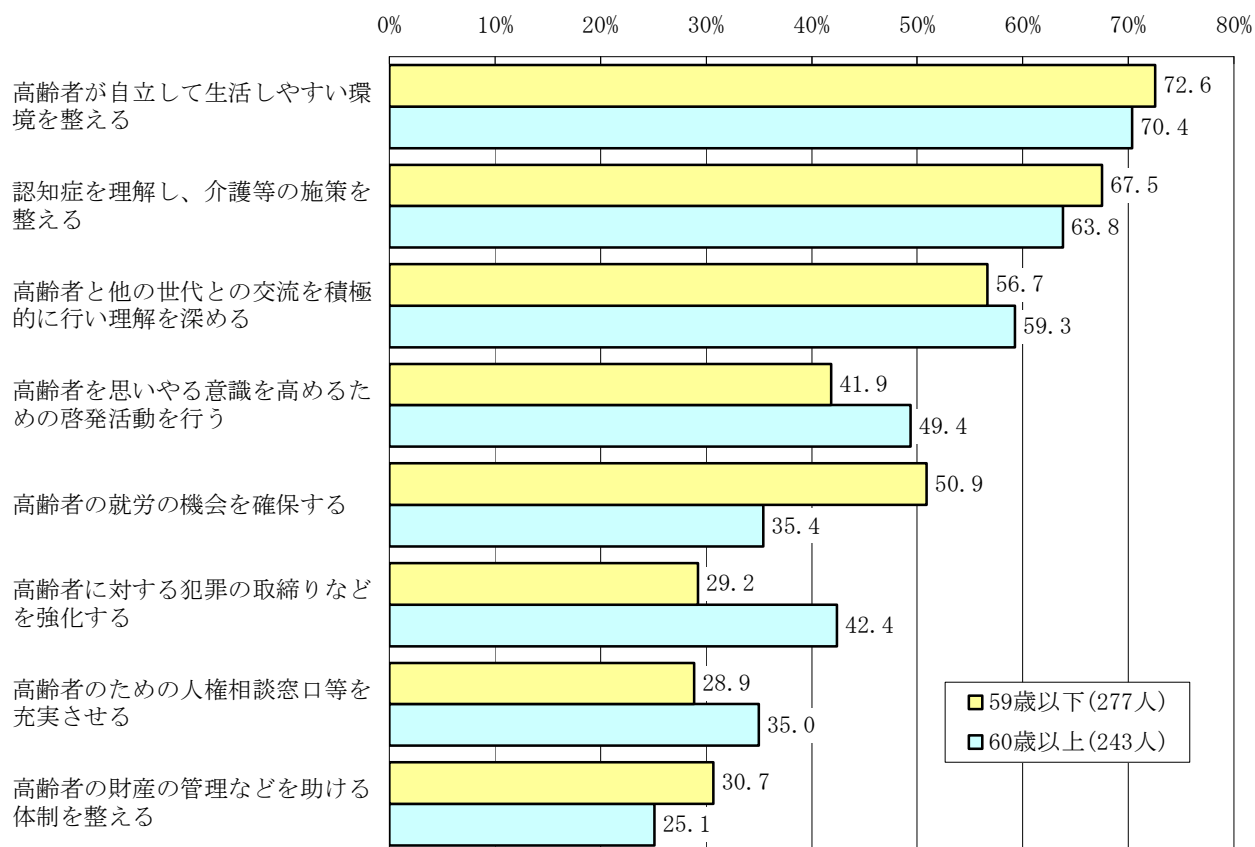


図 5-7 高齢者の人権を守るために必要なこと

